



みみたん通信

京都市手話学習会「みみずく」

本部機関紙部発行

会長 石神博行

事務局 FAX075-812-6112

みみたん通信 第62号

<http://www.mimizuku-kyoto.com/>

2025年 1月1日発行

新年あいつさつ

新年、明けましておめでとうございます。

2025（令和7）年が始まりました。皆さま、どんなお正月を迎えられましたか。穏やかな年越しをお迎えになりましたか。

昨年元旦は、能登の震災が起こり、大変な1年のはじまりでした。昨年は辰年、大きな変化の起きる年と言われていますが、本当に激動の1年でしたね。強く印象に残っているのは、旧優性保護法に基づいて実施された強制赴任手術に関する国家賠償請求訴訟が最高裁判所で判決が出たこと。長年、苦しんでこられた原告であるろう者や障害者が勝訴し、国の責任がはっきり認められたことでした。大きな変化であったと思います。

さて今年、どんな年になるのでしょうか。国会では、いよいよ手話に関わる法律（手話施策推進法）が議論されるようです。手話やろう者に関わる制度が、大きく前進することを期待させますね。

また8月には、全国手話通訳問題研究会のサマーフォーラムが京都で開催予定です。そして11月には東京でデフリンピックが開催。全国のろう者、手話関係者、また世界のろう者が集いふれあう1年となりそうです。

今年も忙しい1年になりそうですが、私たちみみずく会も聴覚障害者協会や全通研、府サ連と共に、これらの活動に積極的に取り組んでいきたい所存です。

どうか、今年も京都市手話学習会「みみずく」をよろしくお願いいたします。

京都市手話学習会「みみずく」

会長 石神 博行

目 次

1・・・新年のご挨拶	9・・・伊丹市「たんぼぼ」との交流会
2・・・旧優生保護法による 被害者とともに歩む京都の会	10・・・縁の地巡り／医療と手話通訳
3・・・映画を観て	11・・・科学センターへ行こう
4・・・能登半島チャリティー講演会	12・・・支部訪問
5・・・さがの手話まつり	13・・・レインボー3学習会
6・・・いこいの村まつり	14・・・活動助成金報告
7・・・こころつながるプロジェクト	15・・・手話劇を楽しむ会
8・・・楽しいスポーツ大会	16・・・行事予定／編集後記

旧優生保護法による被害者とともに

歩む京都の会 結成集会

去る9月28日（日）ウイングス京都で開催された、「旧優生保護法による被害者とともに歩む京都の会」の結成集会が開かれた。

午前中は、映画「沈黙の50年」が上映。午後から「共に歩む京都の会」の結成集会として、7月3日の大法廷判決で、旧法を違憲とし、国の賠償責任を認めた最高裁判判決の解説を京都弁護士団の和田浩弁護士による解説があった。

なぜ大法廷で違憲という判決が下されたのか。不妊手術を受けた者又は配偶者が、国に対して、国家賠償請求訴訟を提起した事案を憲法13条。14条1項を引き合わせて一つひとつ解説しながらの大法廷報告はとてもわかり易かった。

憲法13条は、人格的生存に関わる重要な権利として、自己の意思に反して身体へ侵襲を受けない。つまり医療処置などによって生体に傷をつけない自由を保障している。不妊手術は、生殖能力の喪失という重大な結果をもたらす身体への侵襲である。「したがって」正当な理由に基づかずに不妊手術を受けることを強いることは、13条に反して許されない。

不妊手術について、本人に同意を求めるということ自体が、個人の尊厳と人格の尊重の精神に反して許されないのであって、実質、不妊手術を強制するものであることに変わらない。

憲法14条1項の趣旨は、法の下での平等を定めており、事柄の性質に応じた合理的な根拠に基づくものではない限り、法的な差別的な取扱いを禁止しています。

特定の障害等を有する者、または配偶者が特定の障害等を有する者等を不妊手術を行うことに正当な理由があることは認められない。

除斥期間の適用についても、改正前民法724条の後段の規定で、不法行為によって発生した損害賠償請求権の除斥期間を定めたものである。

しかしながら、本件の関係の下において、除斥期間の経過により請求権が消滅したものとして国が損害賠償責任を免れることは、著しく正義・公平の理念に反し、到底容認することはできない。権利の濫用に当たると言ってしまうの解説、私の頭でも分かった。

「歩む会」は、9団体で構成されて発足した。
一日も早く全面解決できることを願っています。

式典の後、2回目の「沈黙の50年」が上映されて閉会した。

午前・午後併せて249人の参加があった。



映画「私ちに祝福を」を観て

まず会場のウイングス京都に着いた時の受付を待つ人の行列に度肝をぬかれました。これはただ事ではない。特別の映画なんだ。と思い入場を待ちました。

そして満員御礼の中、映画が静かに静かに始まったのです。

ひととき印象的だったのは、いない子供を抱くシーン。おそらく赤ちゃんが欲しい女性なら誰でも幼子を抱く自分の姿を思い描いたことでしょう。そして炎が回り続けてるシーン。これは輪廻を表現しているとパンフレットを読んで知りました。テーマの不妊手術の問題の根深さを感じます。

それはさておき、みみずくのサークルで出会う先輩方やろう者さんが画面に登場なさった時はうれしくて思わず拍手をしました。重く悲しいテーマの中、片岡さんと親しく話なさるシーンがあって救われた気がいたします。そして、見慣れた京の風景に癒されながら音のない2時間余を過ごしました。

記念すべき映画上映の初日に見せていただき、演者の方々のトークも拝見できてありがたかったです。

これからの全国行脚の無事と成功を祈念します。

山科支部昼の部 島田早紀子

映画「沈黙の50年」を観て

国から子どもをつくってはいけないと言われた人たち

重いテーマの映画なので、私は、身の引き締まる思いで会場に向かいました。入口には、多くの方々旧優生保護法の被害を受けた方々の支援を訴えていました。手話関係の活動を長年されてきた熱心な方々の篤い思いが、会場に響いているようでした。

映画は、数々の実話を映画化して、最後に、実際に被害にあった方々の証言もありました。勇気ある証言をされた方々は、言葉では、言い尽くせない苦しみの日々だったことでしょう。それが、まだまだ、続いている孤島だろうこと。そのこころの疼きを固く秘めたままの人たちは、どれほど沢山いらっしゃるのか。

温かく育み合うために、与えられた命なのに、どんな命も、大切なのに。

この悲しみを背負ってこられた聾の方々はこの訴えを映画と言う方法で表現して下さった活動を目の当たりにして、私は、心からありがとうございますと言いたいと思います。

この痛みを疼きを乗り越えて、映画にも、出て下さった聾の方々にも、本当にありがとうございます。大切なことを、命の尊さを思うときとなりました。

山科みみずく（昼の部）鈴木真理子



今年1月1日、能登半島を襲った大地震による甚大な被害を受けた奥能登、特にろうの人たちの被害者に特化したチャリティー講演会が9月15日（日）京都市みぶ身体障害者福祉会館にて開かれた。

金沢地域活動支援センターろうあハウスの所長であり、石川県聴覚障害者災害救済対策本部長の、ろう者の吉岡真人さんにより能登半島地震についての講演会が中京聴障協の依頼で開催されました。

中京聴障協から、はじめは、チケット購入者60枚目標でしたが、今回、96枚販売したと報告がありました。チケットの売り上げは、能登半島地震の支援金として活用されます。

最初に、吉岡さんの自己紹介、次に石川県の手話について話されました。京都の東と西の表現と石川県では違うことから始まり、能登半島（奥能登）、珠州市、輪島市、穴水市、能登の手話表現のレクチャーがありました。ちなみに、能登半島と能登の手話表現は異なります。能登半島の手話表現は、親指を掴む表現はしないという説明がありました。そこだけと指定しているように見えるから、親指のところらへんという表現をするのが正しいとのこと。指文字で、スズ（珠洲市）と表現するそうです。



石川県手話のレクチャーが終わり、本題の能登半島地震についての講演が、はじまりました。石川県は、4つの拠点があります。石川県聴覚障害者センター、とうあハウス、あさがおハウス、やなぎだハウスです。2007年3月25日の9時頃に、七尾市と輪島市に地震があり、その地震がきっかけで、やなぎだハウスが建ったそうです。「頑丈で、地震の際の避難施設にしか聞き入れてもらえない事が続いている。」と説明がありました。

しかし、2024年元旦に起きた地震で、やなぎだハウスは、損傷があり、8月までは入れない状態になりました。（9月から営業再開）

冒頭で、吉岡さんは言います。「鳥たちが、羽ばたいて逃げていく。今まで起きたことがない事が起きて、能登はダメなんじゃないかと不安で落ちてかない。今もトラウマが残っている。地震がなくても、地震を感じる。人が、歩いているだけでも怖い毎日。最近、ようやく寝返りがうてるようになった。」能登半島地震は、石川県全域に被害があり、輪島市の有名な建物はほぼ燃えたとの事です。

また、一車線のみ長く続く道のため、陸路が寸断され、電気、ガス、水道も使えなくなりました。車での移動は、山の道で回り道して進んだそうで、ライフラインが治るのに1km3日間かけて治すため、全部治るまで2年半と説明がありました。被害のあった場所は130kmくらいの面積があるからです。



聞こえない方の安否確認は、LINEなどのICTと、高齢者には訪問して確認する事で実施しました。知らない人が訪問すると警戒されるため、知っている人と一緒に訪問しました。また、拠点ごとに、ホワイトボードに、大丈夫な人、連絡まだの人書いてチェックしたそうです。ただ、ろうあ協会にいる人しか、情報がないため、ろうあ協会に入っていない、ろう者は、友達のついででしか聞けないため、置き去りになってしまうなど、課題はたくさんあると言われてました。

今回の事を通して、石川県聴障協会で、震度6以上、豪雨もレベル4で対策本部を立ち上げることを策定し、対策をマニュアル化しました。

1人では、全ての対応が難しいため、地域別にも安否確認をお願いするとともに、住居支援担当、被災者サポート担当、情報、広報担当、物資支援担当（物資窓口 運搬支援）、会計担当（支援金担当と義援金担当）と、対応を分担するようにしました。

プラスヴォイス三浦社長や、目で聞くテレビにも、手厚い支援をいただいて、他団体の支援のおかげで立ち直ったと感謝されていました。

市・町に掛け合い、避難所に、ろう者をまとめて欲しいと要望を出しました。それなら、できますと回答があり、1. 5次避難所が生まれ、さらに次の2次避難所は、手話通訳者4人が在駐し、罹災証明などの行政の手続き、病院対応が可能になりました。ろう者が集まる事で、スムーズに福祉避難所として役割を果たす事ができました。この事で、ろうの村という言葉が生まれました。ろうの村を確立するにあたって、次の5つの事が重要である事がわかりました。①コミュニケーションの確保②安全と安心③社会的孤立の防止④特別なニーズへの対応（通訳者 常駐）⑤心理的なサポート。

自宅が全壊した家族には、モバイル建設からモバイルハウス仮設住宅を2年契約してもらい、やなぎだハウスの近くに構えました。2年後、どうするかも課題ですと話されました。

私は、まだ被災した事が、ありません。今回の吉岡さんの話を聞き、手話学習者としての役割はなんなのかを改めて考えたいと思いました。

中京夜の部 武田 明夏



京都さがの手話まつりに参加して

京都さがの嵐山手話祭

去年に引き続き今年も行きました。

酷暑の中、テント下での販売作業は大変だったと思います。私はといえば建物の中でゲームや抽選会、催し物の物色等、他に大道芸や落語と楽しみ三昧でした。抽選くじは、これまた昨年同様の外れ！。聴導犬と言えば、愛想を振り撒き過ぎて疲れた様子でお昼寝中。

唯一心底笑って楽しんだのは「手話落語」でした。面白かった～！

甲子園、阪神タイガース。福壺さんの落語の動きに合わせての手話通訳の口調の息が合ってるので、これまた面白い。これが打ち合わせ無しと聞いてびっくりです。くじは外れたが、落語で楽しめて大当たり～！の手話祭でした。皆さまお疲れ様でした♪。

ペンペン草 北澤



いこいの村まつり バスツアーに参加して

コロナ禍で開けなかった「いこいの村まつり」。久しぶりに開かれ、京都市内、山城地域からもバスを仕立ててツアー参加。おまつりムードいっぱいでした。

雨にもマケズ・・・沢山の人が集まり、とても楽しい祭りでした。参加者の声を紹介します。

サークルに入って20数年にして初めていこいの村に行くことができました。施設の中を見たり模擬店で食べ物を買ったりし、楽しめました。

中京支部 竹井

舞台での催し物、楽しかったです。進行もスムーズで盛り上がりました。来年も楽しみです。

下京支部 一村説子

懐かしい方にお会いできて、嬉しかったです。

伏見支部 山岸

初めていこいの村に行きました。

自然豊かで非常にリフレッシュした気分になりました。ステージも盛り沢山の模擬店の食べ物も美味しく、いこいの村まつりが楽しめて良かったです。来年からも、また参加したいと思います。

言友会 藤橋和磨

初めまして、いこいの村に仕事を休んで来させて頂きました。とても良かったです。各々の出し物もステキで、感動致しました。あっという間の時間でした。お世話になりました。

手話サークル「伏水」 野村 奈緒美

初めていこいの村に来ました。色々見ることができ、良かったです。

中京支部・夜の部 岸本

太鼓を見られてきれいでした。楽しかったです。

市聴言センター「若木寮」利用者 南 真理子

いこいの村まつりに参加。市内からいこいの村行きのバスツアー、往復共にバスでの移動、便利。しかし、残念ながら当日は雨でしたが幸いにもバスに乗っていたので、濡れることもなく、不幸中の幸いでした。楽しかったです。

市聴協山科支部 井谷

昨年ぺんぺん草で訪問、本日2度目。前は施設見学のみでしたが、今回は祭りだったので、目的のパンが買えて満足です。

北澤

久しぶりのいこいの村、大きな祭りになり、いろいろなバザーも多く、感動しました。人もいっぱい楽しかったです。よかったです。

市聴協 小山 貞夫

雨が降ったり止んだりでしたが、多勢の人が集まり、にぎやかな祭りに戻れてよかったです！いろいろな職員、懐かしい仲間と久しぶりにお会いできて嬉しかったです。

京都市聴言センター 職員

バスツアー参加者全員の声をとりましたが、紙面の都合上、少数の人の紹介になってしまいました。申し訳ございません。

山科支部・夜の部 鈴木 翔悟

こころつながるプロジェクト

つながるフェスで手話体験ブースを設置しました！

10月20日（日）にゼスト御池で開催された「つながるフェス」に参加しました。

この日は京都市聴覚障害者協会の皆様にもご協力いただき、手話体験ブースを設置。



ゼスト御池を歩く市民の方たちに、「おはよう」や「ありがとう」などの挨拶や知りたい手話を指導していただきました！

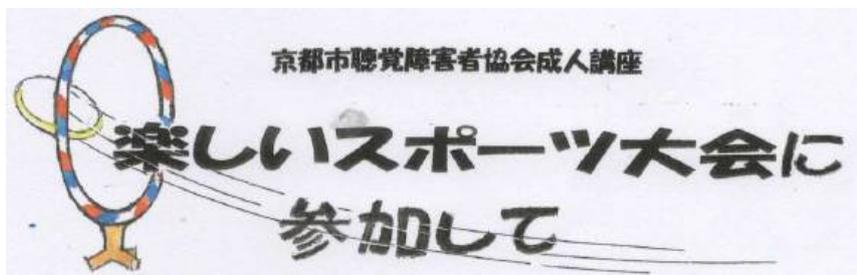
私たちみみずく会の会員は呼び込みといざという時に双方のことばを伝えるための要員です。

体験された方にはみみずく会のパンフレットをお渡ししました。

啓発活動をみみずく会として行うことは久しぶりでしたが、今回を契機に活動をさらに広げたいと思います。

中京支部夜の部 竹井友子





楽しいスポーツ大会が10月13日に京都市障害者スポーツセンターで執り行われました。参加人数はみみずく15名・聴障協25名・その他4名、合計44名でした。

楽しいスポーツ大会に参加して。

スポーツと名の付くものは苦手。秋晴れの日、参加して大丈夫かと不安でめまいがしてきた。

聞いたこともない競技？の初体験は自分の思うようには体は動かず、投げてまともには飛ばず、少々年齢以上の衰えを感じつつ昼食。お弁当おいしいし、会話も盛り上がり一気に午後の部。興味深々のカローリング。なるほど、体力より作戦を練って、ふんわり投げるのよと身振りで教えてもらう。だんだん白チームの皆さんが声援を上げだし、夢中になってみんなと一緒に身を乗り出してる。一投ごとにみんな熱くなって負けても、すがすがしい。最後のじゃんけんリレーは投げ出す手が熱くなるほど盛り上がる。

スポーツ大会楽しんで、いっぱい手話で話して最高でした。大会を準備してくださった皆様ありがとうございました。

山科夜の部 小山通子



去る10月13日(日)高野のスポーツセンターで開かれた「楽しいスポーツ大会」。

私は、今年初めて参加しました。受付担当ですので早めに行き、受付に居て参加者の名前を聞き、お弁当を集め、紅白の組み分けなど、担当者の仕事は結構多い。なにしろ受付担当者3人は初めて担当する者ばかり。私は初めてで何をどうしていいかわからず戸惑うばかりで、参加者の皆さんには申し訳なかったです。

午前の開会、先ずストレッチ、そして2種類の競技。大きな輪っかの的に向かってフリスビーを投げ入れるのと、輪投げ。

午後も2種類の競技。皆さん、あまりうまくいかなかったようですが、それでもワイワイ、ガヤガヤと楽しくゲーム？競技を楽しんでおられました。

ただ、参加者と見学者が入り交じって、休憩する椅子が荷物だらけで、一服するところもないぐらいで、「しんどいなァ」と、言われる人もおられました。



昼食のお弁当は評判が良かったです。手話通訳の出来る方が受付や、お弁当を渡す時に2~3人居てもらえたら、もう少しスムーズに出来たのではと思いました。

いや、私自身がもう少し手話が出来ていたら、皆さんのお役に立てるし、話もできたのではと、勉強の足りなさを痛感しました。

でも、皆さん笑顔での参加と、なにより無事に終了できたことに感謝です。

東山支部 橋本 邦子

市立伊丹病院手話サークル「たんぽぽ」と「みみずく会」との交流会

手話サークル「たんぽぽ」さんが創立 30 周年ということで、京都旅行の中に「みみずく会」との交流会を企画され、10 月 13 日ホテルビナリオ嵯峨嵐山で行われました。

自己紹介から始まり、「たんぽぽ」さんから 19 名(ろう者 3 名)の参加がありました。みみずく会からは歴代会長の持田さんと高瀬さん、そして現会長の石神さんと川合が参加しました。



自己紹介の後は、市立伊丹病院に手話サークルができたきっかけをお話ししてくださいました。

手話ができる看護師さんが患者さんと手話で会話をしたのがきっかけで、聴覚障害の方が来られた時は対応してほしいと頼まれるようになったそうです。

しかし聴覚障害者の対応を優先にすると、自分の仕事ができなくなるということになっていたため、その看護師が聴覚障害者の対応をしている時は、代わりに誰か来てもうようにすると決めてやっていたそうです。聴覚障害者の方の来院も増えてきたので、伊丹市に手話通訳を設置してほしいとお願いしましたがかなわず、その後病院として設置したそうです。

そんなことがあった中で、病院の職員等が「簡単な手話を覚えよう」「覚えたい」という声があり院内に手話サークルをできたそうです。医療学習が中心ですが、手話ゲームなどもあり楽しそうなサークルだとお話を聞いていて思いました。

みみずく会にも「サークルができたきっかけ」「長く続けるには?」「京都市内のサークルの数」「ろうあ者の参加人数」等の質問がありました。

それぞれ答えているうちに、京都の手話が出てきたりした時は、たんぽぽさんも一緒に表現されて和やかで、楽しい交流会になりました。



交流会後、今回参加できなかった副会長の安政さんが「良かったら、天龍寺を案内しますよ」と事前に聞いていたので、お誘いしてみました。

「たんぽぽ」さんは、予定があったようですが「せっかくなので、こんな機会でもないと」と一緒に見学に行く事になりました。お仕事中にもかかわらず、安政さんが手話で案内して頂き「法堂」で「雲龍図」も見学することができ、たんぽぽさんもとても喜んで頂く事が出来ました。



安政さんありがとうございました。

南支部 川合

みみずく縁の地巡り 学習会

講演会「ゆかりの地」第1弾

昨年、みみずく60周年記念事業で「ゆかりの地」を巡るツアーが開催されましたが、参加人数限定でした。今年はその内容を講演として収録する企画（3回開催予定）を立てました。その第1弾が、9月9日（月）19:00～京都市聴言センターで行いました。参加者は23人（みみずく21人、聞こえない人2人）でした。

講演は、「府立勤労会館」「府立身体障害者福祉センター」「京都市聴覚言語障害センター」などの場所にまつわる話を持田隆彦氏から説明してもらいました。

「みみずく」ができるきっかけとなった西田一先生の入院の話、「みみずく」会員なら誰でも知っているかと思いますが、1年前に開催された「第13回全国ろうあ者大会」があつて心身ともに疲れが原因だったことは初めて知りました。また、伊東先生の手話ネームが整髪料を付けていない髪の毛バサバサから決まったとか。向野先生の採用を決めたのが伊東先生だったとか。

「みみずく」の学習をセンターだけでなく、向野先生の家や、鴨川、御所、お寺などで行っていたりとか。持田さんの意見発表会のこととか。持田さんでないと聞けない話がたくさんありました。

この内容は冊子にしようと考えています。動画も見ることができますよ！お楽しみに～

上京支部夜の部 渡辺久美



聴覚障害者の医療学習会「医療と手話通訳」

10月26日（土）、京通研市内医療班主催の聴覚障害者の医療学習会「医療と手話通訳」に参加しました。講師は手話通訳者資格をお持ちの現役医師、山内英子氏と看護師の片山昌子氏でした。たくさんの方が集まり聴障者の方も10名くらい参加されていました。山内氏の講演の中で印象に残ったのは「説明するのは医師の仕事。聞きやすい医療者でありたい」というお言葉でした。全ての医師がそうであってほしいなと思いました。片山氏は看護師は医師と患者をつなぐ役割があり、チームとして患者をサポートしているというお話がありました。顔を見て話すことの大切さを改めて考えさせられました。

現場の生の声を聞くという貴重な機会をいただきました。しかし話がヒートアップする場面があり時間が足りず、それぞれの立場で手話通訳を考えるという実践的な話し合いができなかったことがとても残念でした。

中京支部昼の部 尾島美佳

みみずくおでかけ企画 京都市青少年科学センター

お出かけ企画 「科学センターへ行こう！」



11月2日、学習・交流部主催の「おでかけ企画 科学センターへ行こう」に、小6の息子と一緒に参加しました。

外は大雨でしたが、恐竜についてお話をきいたり、プラネタリウムや液体窒素の実験を観たり、1日中楽しませていただきました。興味深い職員さんのお話到手話をつけて下さって、私には手話の勉強にもなりました。プラネタリウムでは入場前に手話で説明があり投影には字幕付が付いて、大変わかりやすかったです。

親子ともにいちばん楽しかったことは、自由に展示を見ている時や食事の時に、みなさんと手話でたくさんおしゃべりできたこと。展示エリアで地震をいっしょに体験できたり、いろんなことを教えていただいたり、冗談をきいて大笑いしました。息子はまだ手話はできませんが、「みんなニコニコして話しやすかった！また話したい！」と早速、指文字から覚えようと帰りの電車でがんばっていました。親子ともに楽しませていただき、お世話になった方々に心から感謝しております。ありがとうございました。



中京支部 夜の部 高石奈穂



お出かけ企画は楽しかったです。プラネタリウムは童心に帰って夜空を見上げているようでした。

市内の空が寂しいのは私も同じ。

数えても2、3個、北斗七星が精一杯です。

サイエンスライブでは、鈍った頭で一生懸命考えました。

時々こんな機会も必要と思いました。

蝶の家...

アサギマダラの種類の蝶の繁殖に担当者が涙ぐましいくらいにお世話をされているのを感じました。

か弱い生き物を育てるのは大変ですね。

蚊に刺されながらも楽しみました。



西京支部 木曜日 片山昌子

支部訪問

南支部へ行ってきました

去る9月13日(金)に南支部の例会見学に行ってきた。ペンペン草で運営委員担当の服部北澤コンビで13日の金曜日という偶然な日に参加させて頂きました。

予想に反してとても楽しい時間を過ごせました。私は緊張の連続でしたが、雰囲気も各支部の持ち味が有り、終始和やかな感じで進行されていて良かったです。

①ろう者の「パピプペポ」の使い方。

本岡さんが面白く表現されていて「こんなに面白い人だったかな？」と改めて知る事が出来たのも良かったです。「ポ」の使い方のスローモーションをもう一度見たいです。

②NMM(非手指標語)Non・Manual・Markers
身体全体で表す難しさ。私は特に顔の表情が苦手です。勉強になりました～あ！！

サークルの内容以外にも名簿や資料置用のロッカーが有るのがとてもいいな～、羨ましく思いつつ帰って来ました。南支部の皆さんありがとうございました。



上京支部昼の部 北澤まさ子

まだ夏の暑さを色濃く残す9月13日(金)、南支部の例会にペンペン草のニコイチコンビ(服部・北澤)がお邪魔させていただきました。

この日は先ず、『さがの手話まつり』に参加した人の感想から始まりました。楽しかったイベントの出し物やバザーでの超お得な買い物の話、担当したブースの話、昔なじみのイタリア人(京都在住で奥様は日本人)との二年ぶりの再会、手話落語の通訳の苦労話などなど、盛り沢山でした。

学習は『日常会話』と題しての本岡さんの講義でした。講義と言っても、終始にこやかな本岡さんの人柄で和やかに時間が流れていきました。

[Aさん：昨日は株価めっちゃ下落したけど、株もダダ下がりみたいね

[Bさん：元に戻るといいけど円安で1ドル147円だって～

[Aさん：も～海外旅行も高いから行けないな

[Bさん：「インバウンド」って言うけど、外国人の観光客は

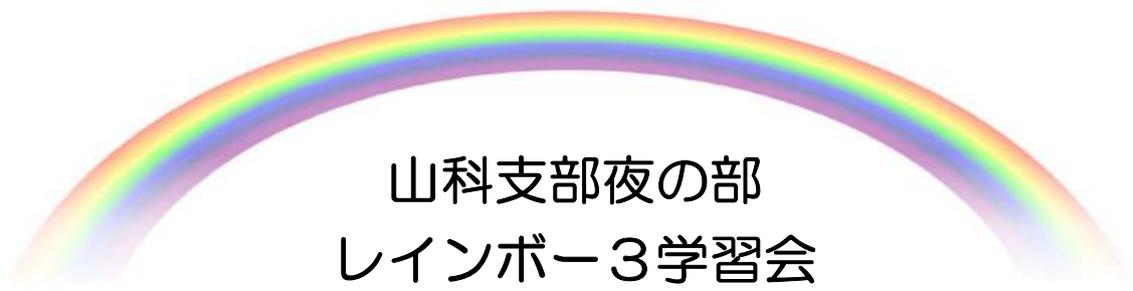
このお盆最高の13万人が羽田空港に入国したそうよ

という、AさんとBさんの会話を日本語対应手話ではなく、日常会話として、どう表すかを教えてもらいました。「めっちゃ」は「もっと」に置き換え、「も～」は手指以外(顔や眉など)を使って表現する『NMM=Non Manual Marker』を用いる。また、「インバウンド」に対して「アウトバウンド」の表し方や、「13万人が羽田空港に入国した」の所では『目立つ』を使い、その際『ポ』を用いることなどなど。時にスローモーションで、時に超高速で手話表現してくれて、とっても楽しくて笑いが絶えませんでした。

帰宅後、冊子『みみずく60周年の歩み』に掲載の南支部の皆さんの顔イラストを、この方はあの方？と想像しながら眺めました。笑顔で迎えてくれた皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

上京支部昼の部 服部恵美子

お詫び 第61号の8ページ「支部訪問」の上から13行目の終わり、「高瀬に」ではなく「高瀬川に」でした。申し訳ございませんでした。



山科支部夜の部 レインボー3学習会

11月7日 山科支部ではレインボー3学習会を行いました。
講師に言友会の藤橋様と府ネットの高瀬様をお招きし、貴重なお話を聞かせていただきました。

これまでに吃音について多少の知識はあったものの、今回のお話でより深く、多角的な視点から考えることができました。

吃音とは単語や音節の発声が繰り返されたり、引き伸ばされたりする言語障害で、その原因は発達の、環境的要因が関係しあうと考えられています。

そして、吃音者は差別や偏見により周囲から否定的な反応を受けがちで、コミュニケーションをとることに大きな負担を感じているそうです。
このような悩みを共有し、一緒に克服に向けて取り組み、吃音問題を解決するために活動しているのが「言友会」です。

言友会の活動は、悩みの相談や会話の練習、例会や機関誌の発行を通じて情報交換を行ったりしています。

後半では、レインボー3のテーマ「すべての人が安心して暮らせる社会に向けて」の5つの項目のうち、啓発活動について参加者で話し合いました。

吃音について正しい理解を広げるためには何をすればよいのでしょうか？

吃音者とのコミュニケーションを心がけ、ゆっくり焦らず待つなど、相手の立場に立った配慮が大切であり、寛容な態度を持つことで安心して生活できる社会が実現できると思います。

今回の講義を通して、吃音者への理解が深まり、差別や偏見をなくし個性を尊重しあう社会にすることが重要であるとわかりました。

これって、手話サークルみみずくの目的と似ているではありませんか？

障害の違いにかかわらず、私たちのすべきことは同じなんだと気づきました。

山科支部夜の部 佐々木知佐

京都市手話学習会「みみずく」目的

手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、全ての人に対する差別や偏見をなくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していく

活動助成金報告

市聴障協西京支部・みみずく西京支部創立 45 周年記念日帰りバスツアー

2024年9月28日(土)

当日は天候に恵まれ、充実した一日を過ごせました。

天橋立までのバス車内ではクイズで盛り上がり、座席の近い方と楽しく交流できました。また天橋立の手話表現を間違っているメンバーが複数おり、正しい手話表現を教えてもらえました。

天橋立での自由散策では、回旋橋(舟が橋の下を通過するとき橋が90度回旋する)が実際に稼働するのを間近で見学でき、手話は橋と同じ動きを表現するのがわかりやすかったと思わずみんな拍手。

橋立シーサイドセンターでは同卓のメンバー同志、賑やかなランチタイムとなりました。食後の買物では手話で試食を勧めあって、一緒に買物を楽しむことができました。舟屋の里公園では展望台から舟屋の全景を眺め、参加者みんなで感動を共有できました。現在は船の大型化に伴い舟屋の中ではなく外に船を係留し、舟屋を魚の料理をする場に行っているところもあるそうです。



伊根湾めぐり遊覧船は珍しい舟屋の建屋の連なりと近くを飛び交うカモメの群れをたっぷり25分間、堪能できました。

この後はお楽しみのお買物タイム。お土産選びで、再び盛り上がりました。

帰路のバス車内では初めて会った方も打ち解け、景品をかけたビンゴや隣席と協力しての手話表現ゲーム、「切手のないおくりもの西京支部バージョン」の手話歌で楽しい時間を過ごし、市聴障協西京支部・みみずく西京支部創立45周年の素晴らしい記念となりました。

西京支部 安政裕之

十石舟乗船と昼食のイベント

2024年10月27日(日)

10月27日、十石舟乗船と昼食のイベントがあり参加しました。

十石舟という言葉聞いたことはあっても見たこともなかったので、どんな舟なのだろう?と興味がありました。

乗船までの間、月桂冠大倉記念館に少し立ち入り、酒蔵の雰囲気を楽しみました。

11時20分出発の船に乗り、いよいよ出発、10月も終わりだというのに蒸し暑い日でしたが、川面は涼風が心地よく、周囲の蔵や古い建造物がいい雰囲気です。周囲は桜の木が多く、おそらく春の桜の季節は物凄く綺麗なのだろうと想像していました。

三栖閘門(みすこうもん)で一旦舟から降り資料館を見物、閘門の役割について模型を使ってわかりやすく展示されていました。5分くらいの時間しかなく、少し慌ただしかったです。なかなか面白い資料館でした。

再び舟に乗って乗船口に戻りますが乗客の体格の違いから左右のバランスがうまく取れなかったようで、船頭さんが声も荒げに舟の案内人を指導するというハプニングもありま

した。

下船後は伏見の名店「鳥せい」でお昼ごはんです。焼き鳥などの鳥料理はもちろん、定食から丼、アルコールが飲める方はビール、日本酒などそれぞれが好きなものを注文します。

私は夕方車を運転する用事があった関係で残念ながらアルコールは飲めませんでした。が、注文したとりかつ丼は甘辛い卵がとりかつに程よく絡んで、とてもおいしい昼ごはんとなりました。

賑やかな昼ごはんも終え、最後は坂本龍馬で有名な寺田屋を見学、こちらも初めての見学で龍馬ファンの私としては感慨深く楽しむことが出来ました。見学後の喫茶店での交流は時間なく参加できませんでしたが、充実した1日となり、とても楽しいイベントでした。

右京支部 高瀬



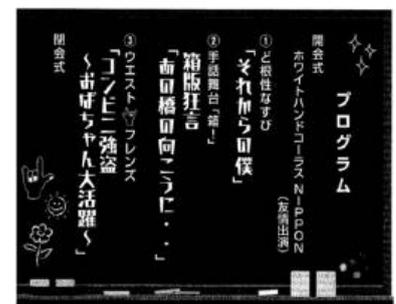
「手話劇を楽しむ会」楽しんできました！！

手話劇を楽しむ会
第23回 旧手話劇コンクール京都大会



1 1月24日(日) 手話劇を楽しむ会に参加しました。

会場の北文化会館は満席状態(約400人)で熱気にあふれていました。今年手話劇の前にお仲間NIPPONの手歌(しゅか)があり、子どもたちの素晴らしい歌声と手話も楽しみました。



手話劇1番目「ど根性なすび」舞台、ストリート共にシンプルでとても分かりやすく、男性2人の物語が、私には胸にずっと入ってきました。音や光での演出が聴覚障害者の方に上手く伝わったか?不安は残りますが、主人公のさすがの演技力でカバーされたのではないかと思います。

2番目「手話舞台 箱!」例年と同じく実力派揃い。手話表現も工夫されていて手話が見やすく、衣装も華やかで舞台に引き込まれながら観ました。

3番目「ウエストフレンズ」幕が上がると同時に素敵な舞台セットに目を奪われました。声優を使わない新しい手話劇の手法。コミカルな演出の中にコミュニケーションツールの1つとしての手話の必要性もしっかり入っていて、笑いが絶えないコミカルな劇でした。

3団体共に個性に違いがあり、本当に楽しませていただきました!

山科支部 夜の部 西田弘美

行事予定

- 1月11日（土） サマーフォーラムを成功させよう！
みんなの「手」で！
- 1月12日（日） 第25回市聴覚障害者成人式&新年大会
- 1月18日（土） デザインフォーラム
- 1月18日（土）～19日（日） スキースノーボード教室
- 2月23日（日） 第20回手話フェスティバル
- 3月1日（土） 旧優生保護法学習会
- 3月2日（日） 第51回耳の日記念集会

編集後記

みみたん通信62号に原稿を寄せてくださった皆様、お忙しい中
ありがとうございました。

いよいよ2025年がスタートいたしました。

今年はデフリンピックが東京で開催されたりする等いろいろな行事があり、ワクワク
する気持ちでいっぱいです！

2025年が皆様にとってもワクワクできる楽しい1年になられますよう祈念します。

そして、次回のみみたん通信も皆様より楽しいご寄稿をお待ちしております♪

どうぞよろしくお祈りいたします！！



中村清乃